



国立中央青少年交流の家を

いろどる しよくぶつ
あつまる いきもの



国立中央青少年交流の家



富士のさと いきもの一覧 (2013年春夏版)

	植物名	花期
1	コブシ	3月~4月
2	ベニコブシ	3月~4月
3	ハクモクレン	3月~4月
4	マメザクラ	4月~5月
5	サトザクラ	4月~5月
6	クサボケ	4月~5月
7	サンショウバラ	5月~6月
8	ヤマボウシ	4月~5月
9	エゴノキ	5月~6月
10	ハナイカダ	5月~6月
11	シナノキ	6月~7月
12	クマシデ	6月~7月
13	ニシキウツギ	5月~6月
14	サンシキウツギ	5月~6月
15	テリハノイバラ	6月~7月
16	ヤマハギ	7月~10月
17	コマツナギ	5月~9月
18	ナワシロイチゴ	6月~7月
19	イカリソウ	4月~5月
20	ホウチャクソウ	4月~5月
21	ノアザミ	5月~8月
22	ギボウシ	6月~8月
23	コバギボウシ	7月~9月
24	オトギリソウ	7月~8月
25	カワラマツバ	6月~8月
26	カワラナデシコ	6月~9月
27	ツユクサ	6月~9月
28	ヤマユリ	7月~8月
29	チダケサシ	6月~8月
30	ジャノヒゲ (リュウノヒゲ)	7月~8月
31	ヒメヤブラン	7月~9月
32	ウツボグサ	6月~8月
33	ムラサキツメクサ	5月~8月
34	シロホトトギス	8月~9月
35	コウヤボウキ	9月~10月
36	ツルリンドウ	8月~9月
37	ノブドウ	9月~10月 (果期)
38	ツリガネニンジン	8月~10月
39	ツルボ	8月~9月
40	ニワゼキショウ	5月~7月
41	ウマノアシガタ	5月~7月
42	ニガナ	5月~7月

	動物名	見られる時期
43	ハグロトンボ	夏
44	イトトンボのヤゴ	夏
45	ナナフシ	夏
46	ヤマトタマムシ	夏
47	ルリボシカミキリ	夏
48	カラスアゲハ	春~夏
49	モリアオガエル	春~夏
50	ヤマアカガエル	春~夏
51	オオスズメバチ	春~秋
52	トラマルハナバチ	春~秋
53	キアシナガバチ	春~秋



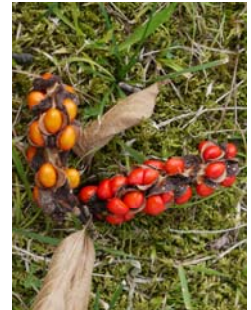
コブシ <モクレン科>

学名： *Magnolia praecocissima*



葉の展開に先立って花を咲かせる。花は白くてよい香りのする大きな6弁花。

和名は、花後につける実のかたちを拳に見立ててつけられた。



↑花
撮影日：2013.4.20

花期：3月～4月

↑果実
熟して出た赤い種子
→

ベニコブシ <モクレン科>

学名： *Magnolia tomentosa*



はる春になると、葉の展開に先立って花を咲かせる。コブシの花は白いが、本種は紅色を帯びる。よい香りのする大きな6弁花。

近縁種の四手辛夷（シデコブシ）の別名を「紅辛夷」とする場合もあるが、本種とは異なる。

撮影日：2013.4.20

花期：3月～4月

ハクモクレン <モクレン科>

学名： *Magnolia denudata*



早春、若葉に先立ち、香りのよい15cmほどの白い花を咲かせる。モクレンの花弁は6枚であるが、外側につく3枚のがくが花弁と似ているため、花弁が9枚ついているように見える。

撮影日：2013.4.20

花期：3月～4月

マメザクラ (フジザクラ) <バラ科>

学名: *Prunus incisa*



樹高^{じゅこう}や葉^は, 花が他のサクラよりも小さめ。
花は下向き^{げこう}に付き, 葉の展開前^{てんかいまえ}あるいはほぼ同時に開花します。富士山^{ふじさん}周辺^{しゅうへん}に多く, フォッサマグナ^{ようそ}要素^{しよくぶつ}の植物。
別名を富士桜 (フジザクラ) ともいう。

撮影日: 2013.4.9

花期: 4月~5月

サトザクラ <バラ科>

学名: *Prunus donarium*



日本^{にほん}に自生^{じせい}するオオシマザクラ、ヤマザクラなどをもとに作られた園芸種^{えんげいしゆ}のサクラの総称^{そうしやう}。
八重咲^{やえき}きのものが多く、葉と花がほぼ同時に出るものが多い。白からピンクの品種^{ひんしゆ}が多いが、黄色い花をつける珍しい品種^{ふんざくら}「鬱金桜」も有名。

撮影日: 2013.4.9

花期: 4月~5月

クサボケ <バラ科>

学名: *Chanomeles japonica*



山野^{さんや}にはえる落葉小低木^{らくようしょうていぼく}。日本固有種^{にほんこゆうしゆ}。
和名^{わめい}は草木瓜^{くさぼけ}。

古くに中国から渡来^{とらい}したボケより小型^{こがた}ということから。
果実^{かじつ}は、秋になると黄色^{あき}く熟^{きいろ}してリンゴのような香り^{じゆく}がする。
古くから、乾燥^{かんそう}させて煎^{せん}じて飲^のんだり、酒^{さけ}に漬^つけたりする。

花期: 4月~5月

↑花
撮影日: 2013.4.20

果実→
撮影日: 2013.7.13



サンショウバラ <バラ科>

学名： *Rosa hirtura*



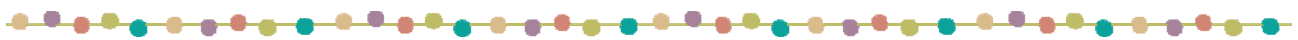
日当たりのよい林内で育つ落葉低木
和名は山椒薔薇。

名前の由来は、サンショウの葉に似ることから。
別名はハコネバラ

野生のバラとしては分布域が狭く、富士山・箱根
山周辺、伊豆半島でのみみられる（フォッサマグ
ナ要素の植物）。

撮影日：2013.6.1

花期：5月～6月



ヤマボウシ <ミズキ科>

学名： *Cornus kousa*



山地の林内、林縁で育つ落葉小高木。

和名は山法師（やまぼうし）。花を僧侶の頭巾に見立
てて呼ばれる。

☆初夏、所内のいたるところで、きれいな花をさかせて
いる。

撮影日：2013.6.4

花期：4月～5月



エゴノキ <エゴノキ科>

学名： *Styrax Japonica*



雑木林の林縁部に普通に育つ落葉高木。陽樹で、暗い林内
では育ちにくい。

名前の由来は、実が「えぐい（まずい、にがい）」から転
じたとされる。

果皮にエゴサポニンを多く含み、
水に溶かすと泡立つので
石鹸の代わりに利用
できる。



撮影日：2013.6.4

花期：5月～6月

エゴノキの実↑
2013.7.18

ハナイカダ <ミズキ科>

学名： *Helwingia japonica*



撮影日：2013.5.16

山地の林下に育つ落葉低木。
和名の花筏は、花を人に、葉をいかだに見立ててつけられた。

熟した果実
撮影日：2013.7.23→



花期：5月～6月

シナノキ <シナノキ科>

学名： *Tilia japonica*



撮影日：2013.7.23

山地や溪谷に育つ落葉高木。

和名：科の木、級の木

もとは、シナは「結ぶ・しばる」の意味のアイヌ語。この木の樹皮の繊維は強く、綱や布として使われてきた。

☆満開になると、たくさんの種類の虫が、蜜を求めて集まってくる。

シナノキの花の蜜を吸うカラスアゲハ



花期：6月～7月

クマシデ <カバノキ科>

学名： *Carpinus japonica*



山地の谷沿いなどに育つ落葉高木。

写真は果実のあつまり（果穂）。

材は家具などに使われる。

和名は熊四手。

撮影日：2013.7.13

花期：4月～5月

ニシキウツギ 〈スイカズラ科〉

学名： *Weigela coraeensis*



太平洋側の山地に多く生える。

花は、白からピンクに色が変わっていく。

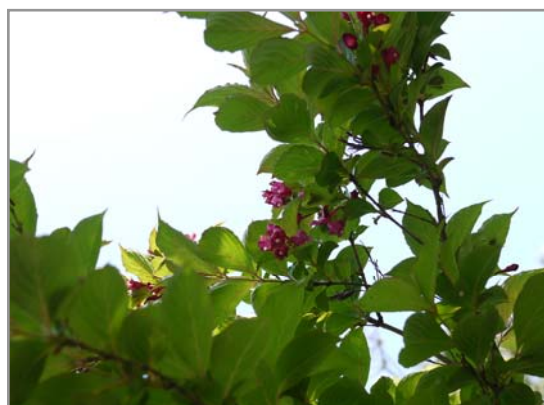
花の咲く時期に赤白二色の花が咲いているように見るところから 「二色」の名がついた。

撮影日：2013.6.4

花期：5月～6月

サンシキウツギ 〈スイカズラ科〉

学名： *Weigela fujisanensis*



山地に生える落葉低木。

富士山麓に多く生える。

(登山口に向かう道中にたくさん見ることができます。)

和名は三色空木で、花が紅色や濃紅色と変化することに由来。

撮影日：2013.6.4

花期：5月～6月

テリハノイバラ 〈バラ科〉

学名： *Rosa wichuraiana*



つる性の落葉低木

よく「野バラ」とも呼ばれる、日本の代表的なバラの原種の1つ。

撮影日：2013.7.9

花期：6月～7月

ヤマハギ <マメ科>

学名： *Lespedeza bicolor*



木本（樹木）草本のような性質も備えているので半低木といわれることもある。

秋の七草に数えられるが、7月頃から咲き始める。

とても繊細な美しい花が咲き、花後は、豆状の実がなる。

撮影日：2013.7.9

花期：7月～10月

コマツナギ <マメ科>

学名： *Indigofera pseudo-tinctoria*



草のようであるが、木本（樹木）。草刈が頻繁に行われるような草地などに生育する場合には時折刈り取られるので地面を這うような形で生育する。

名前の由来は、丈夫であるので、これに馬のたすなをつないだことから「駒繫ぎ」と呼ばれるようになったという説や、馬が好んで食べるので馬がその場から動かないからという説がある。

撮影日：2013.7.13

花期：5月～9月

ナワシロイチゴ <バラ科>

学名： *Rubus parvifolius*



地面に這うようにはえるツル性の樹木。

実は赤く熟して食べられるが、茎にとげがあるため、注意が必要。

撮影日：2013.7.23

果期：6月～7月

イカリソウ

〈メギ科〉

学名： *Epimedium grandiflourum*



林内^{りんない}や林縁^{りんえん}にはえる^{たねんそう}多年草。

昔から、強壯薬^{きょうそうやく}として有名。現在でも、栄養ドリ
ンクの原料^{げんりょう}として使わ^{つか}れている。

日本名は^{いかりそう}錨草。

花の形が船^{ふね}の錨^{いかり}に例え^{たと}られている。

撮影日：2013.5.19

花期：4月～5月

ホウチャクソウ

〈ユリ科〉

学名： *Disporum sessile*



林内^{りんない}や林縁^{りんえん}にはえる^{たねんそう}多年草。

日本名は^{たかなくさ}宝鐸草。宝鐸^{ほうたく}とは、^{じいん}寺院の^{のきさき}軒先に下^かがっている
風鈴^{ふうりん}のような飾^{かざ}りのこと。

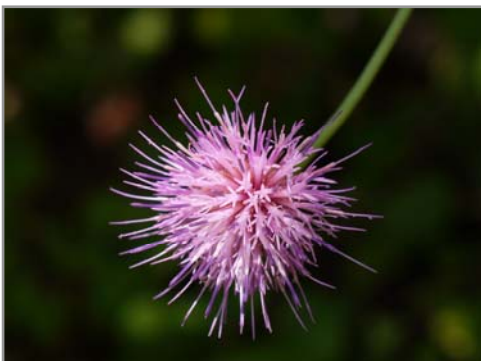
撮影日：2013.5.16

花期：4月～5月

ノアザミ

〈キク科〉

学名： *sirsium japonicum*



草地^{くさち}に生^はえる^{たねんそう}多年草。

和名^{わめい}は野薊^{のあざみ}。野^のに生^はえるアザミ^{いみ}の意味。

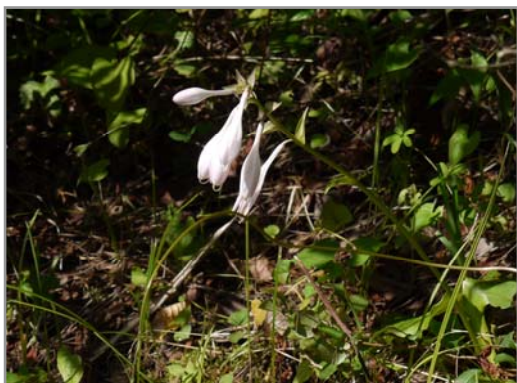
外国^{がいこく}で品^{ひん}種^{しゆ}改^か良^{りよう}され、ドイツアザミ、ハナアザミとし
て栽^{さい}培^{ばい}される。

撮影日：2013.7.9

花期：5月～8月

ギボウシ 〈ユリ科〉

学名： *Hosta fortunei*



山間の湿地などに自生し、花が美しく日陰でもよく育つ。

和名は、擬宝珠。これはこの植物のつぼみ、または包葉に包まれた若い花序が擬宝珠に似ることに由来する。（擬宝珠とは橋や神社、寺院の階段の手すりなどに設けられている飾り。）

撮影日：2013.7.12 花期：6月～8月

コバギボウシ 〈ユリ科〉

学名： *Hosta albo-marginata*



日当たりの良い湿地、水田の畦などに生える多年草。和名は小葉擬宝珠。

葉だけでなく、草丈など全体的に小さなギボウシのなかまです。鮮やかな美しい花を咲かせる。

撮影日：2013.7.25 花期：7月～9月

オトギリソウ 〈オトギリ科〉

学名： *Hypericum erectum*



林縁などの草地に育つ多年草。

花の寿命は1日で、日中に咲くだけ。

葉を透かして見ると、黒色のこまかい点が散在している。

和名は、弟切草。秘伝の薬草の名前を他人にしゃべってしまった弟を兄が切った時の返り血がこの黒点であるとの言い伝えがある。止血・傷薬などに薬効があるとされ、民間薬として使われる。

撮影日：2013.7.23 花期：7月～8月

カワラマツバ

〈アカネ科〉

学名： *Galium verum*



和名は「河原松葉」。

「松」のように細い葉の植物という意味。河原という名がつくが、実際には山地の草原などに生えることが多い。

学名につく *Galium* はギリシャ語で「gala（乳）」から。チーズを作る際に牛乳を凝固させるのに使うことから名づけられた。

撮影日：2013.7.13

花期：6月～8月

カワラナデシコ

〈ナデシコ科〉

学名： *Dianthus superbus*



別名を大和撫子。単に、撫子とも呼ばれる。

名の由来は、「撫（な）でるようにかわいい花」ということである。古名を「常夏」と言い、花期が夏から秋と長いことから。秋の七草の一つ。

花言葉は「可憐な純情」

撮影日：2013.7.23

花期：6月～9月

ツユクサ

〈ツユクサ科〉

学名： *Commelina communis*



名前の由来は朝露を受けて咲き始めることから。

午後になるとしぼんでくる。

別名がたくさんある。

蛭を飼うときに籠に入れたことから「蛭草」

染料や、京友禅の下絵などに利用ことから「藍花」

「青花」「移草」「月草」

花を包んでいる苞の形から「帽子花」

撮影日：2013.7.12

花期：6月～9月

ヤマユリ 〈ユリ科〉

学名： *Lilium auratum*



日本原産のユリ。和名「山百合」でそのまま山に生える百合という意味。日当たりの良い山野の斜面などでよく育つ。

学名の「オーラツム」は「黄金色の」の意味で、花びらに入る黄色い筋に由来する。

ユリの中でも最大級の大きさ。

撮影日：2013.7.23 花期：7月～8月

チダケサシ 〈ユキノシタ科〉

学名： *Astilbe microphylla*



和名は「乳茸刺」。

乳茸という食用キノコを採ったときに、茎が細くて固く、葉が少ない、この草の茎に刺して持ち帰ったことからという。

撮影日：2013.7.13 花期：6月～8月

ジャノヒゲ (リュウノヒゲ) 〈ユリ科〉

学名： *Ophiopogon planiscapus*



山林の陰に生える多年草。

名前の由来は、葉を龍のひげにみたてた説、能面で老人の面（「尉」）といい、そのあごひげに見立てた説がある。

冬でも枯れない常緑性のため、園芸用に好まれ、民家の庭や庭園にもよく植えられる。

花後、青い玉のような種子をつける。

撮影日：2013.7.13 花期：7月～8月

ヒメヤブラン <ユリ科>

学名： *Liriope minor*



日当たりのよい野原などに生える多年草。花は直径約1mmの小さくて淡い紫色。果実は種子が露出し、直径4～5mmで、紫黒色に熟す。

撮影日：2013.7.25 花期：7月～9月

ウツボグサ <シソ科>

学名： *Prunella vulgaris*



草地や道端に生える多年草。花はくちびる形で紫色。

撮影日：2013.7.13 花期：6月～8月

ムラサキツメクサ <マメ科>

学名： *Trifolium pratense*



ヨーロッパ原産の帰化植物。
別名 アカツメクサ

《帰化植物とは》日本原産の在来種に対して、外国の植物が自生地から人間の媒介で渡来し、繁殖、生育して野生化するようになったもの。普通、侵入経路が歴史的に見当のつくものだけをいうが、稲作とともに入ってきた植物を想定して史前帰化植物と呼ばれるものもある。

撮影日：2013.7.1 花期：5月～8月

シロホトトギス (ホトトギス) <ユリ科>

学名: *Tricyrtis hirta var. albencens*



わめい ^{しろ ほととぎす}
和名は「白杜鵑草」。

ホトトギスは「時鳥」とも書く。日本固有種。
丘陵や低山の半日陰に生える多年草。シロホトト

ギスはホトトギスの変種で、珍しい。

学名 *albencens* は、変種名で「白い」という
意味。

撮影日：2013.9.25

花期：8月～9月

コウヤボウキ <キク科>

学名： *Pertya ovata*



わめい ^{こうや ぼうき}
和名は、「高野箒」

かつて和歌山県高野山では、弘法大師の教
えで果樹や竹などの植栽を禁じられていた
ため、この植物で作った箒が用いられてい
たことが名前の由来。

撮影日：2013.9.25

花期：9月～10月

ツルリンドウ <リンドウ科>

学名： *Tripterospermum japonicum*



山野の樹陰にはえる多年草。

地表を這ったり小さな植物などに巻きついて立ち
上がる。花後は赤色の果実を実らせる。

花の色は淡い紫色からほとんど白色であり、自立
つ花ではないが、秋の到来を思わせるかわいらし
い花。

撮影日：2013.9.25

花期：8月～9月

ノブドウ 〈ブドウ科〉

学名： *Ampelopsis brevipedunculata*



木本のツル植物。

主に藪や草原に繁茂している。花は夏に咲く。果実は淡い紫色を経て空色に熟す。空色の果実は珍しく、秋の野山を彩る。

しかし、切花にするとすぐに色あせてしまう。この果実は悪味でとても食べられないが、鳥には良く食べられる。

撮影日：2013.9.25 果期：9月～10月



ツリガネニンジン 〈キキョウ科〉

学名： *Adenophora remotiflora*



山野に生える多年草。

和名は「釣鐘人参」。由来は、花が釣鐘状で、根を朝鮮人参にたとえて。

春の若芽は山菜として親しまれている。

太い根は生薬で沙参といい、せき、たんなどの薬効がある。

撮影日：2013.8.27 花期：8月～10月



ツルボ 〈ユリ科〉

学名： *Scilla chinensis*



山野などに生える。

秋の初め頃に、突然茎を伸ばし始め、薄い紫色の花を咲かせる。

咲き始めはツクシに似ている。

地下茎部分(球根)が有毒。

和名の由来は不明だが、「蔓穂」と漢字をあてられている。

撮影日：2013.8.27

花期：8月～9月

ニワゼキショウ 〈アヤメ科〉

学名： *Sisyrinchium rosulatum*



ひあたりのよいあぜちくさちしばふそだ たねん
日当たりのよい畦地や草地（芝生）などに育つ多年
草。

はないろむらさきうすむらさき
花の色は、紫、薄紫、ピンクなどさまざま。

わめい にわぜきしょう か
和名は、庭石菖。ショウブ科のセキショウに葉がにて
いることから。

にほんていえん しばふ なか き すがた たの
日本庭園では、芝生の中に咲く姿がかわいらしく、楽
しみにしている方もいると、手入れの際、ニワゼキ
ショウを残すように草むしりをすることもある。

撮影日：2013.5.31

花期：5月～7月

ウマノアシガタ 〈キンポウゲ科〉

学名： *Ranunculus japonicus*



あぜ ども へい ばしょ そだ たねんそう
畦や土手など、日当たりのよい場所に育つ多年草。
ゆうどく
有毒。

撮影日：2013.7.23

花期：5月～7月

ニガナ 〈キク科〉

学名： *Ixeridium dentatum*



ひあたりのいいあぜ のほら そだ たねんそう
日当たりのいい畦や野原などに育つ多年草。

わめい き は き ながみ にゆうえき
和名は、莖は葉を切ると苦味のある乳液がでることか
らついた。

撮影日：2013.7.9

花期：5月～7月

ハグロトンボ <カワトンボ科>

学名： *Calopteryx atrata*

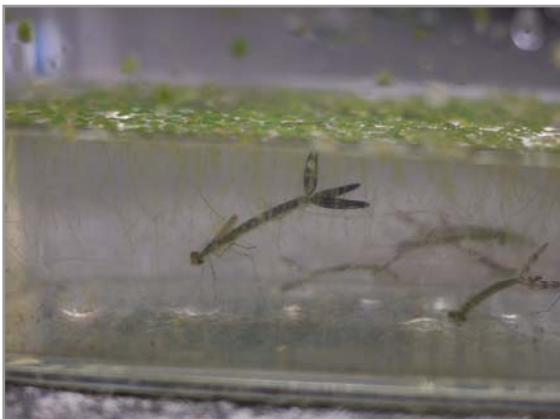


平地から低山地にかけて、流れの緩やかな川などで普通に見られる。

羽は黒く、体は深緑色の金属光沢がある。地上によくとまる。

撮影日 2013.7.13

イトトンボのヤゴ



種類は同定できないが、イトトンボのヤゴと思われる。

幼生（ヤゴ）の間に存在する、尾のようなものは、エラで、羽化が近づくと、水中に切り捨てる。

撮影日： 2013.6.28

ナナフシ <ナナフシ目>

学名： *Phasmida*



撮影日：2013.8.15

ナナフシはこえだ小枝によく似ている。
木の上をせいそくかんきょう生息環境としているので、地球上で最も効果的な自然のもつと こうかてき しぜん ぎたい擬態が行える動物だろう。

ある ぼう歩く棒という意味の「ウォーキング・スティック」とも呼ばれる。

ナナフシはナナフシ目（ラテン語で *Phasmida*）に属し、思いがけなく現れるものという意味のギリシャ語に由来している。

ヤマトタマムシ 〈タマムシ科〉 学名： *Chrysochroa fulgidissima*



緑色で金属光沢があり、胸部と上翅に一對の赤い帯を持つ美しい甲虫。真夏の炎天下に、エノキなどの樹上を飛び回る。



幼虫は、エノキ、ケヤキ、サクラなどの弱った木や枯れ木に穿孔し、材を食べて育つ。

死後も色が変わらずに光り続けることから、古くから装飾として使われた。奈良の法隆寺にある国宝「玉虫厨子」は数千匹のタマムシの羽根を使って装飾されたといわれる。

見られる時期：6月～9月
撮影日：2013.6.18

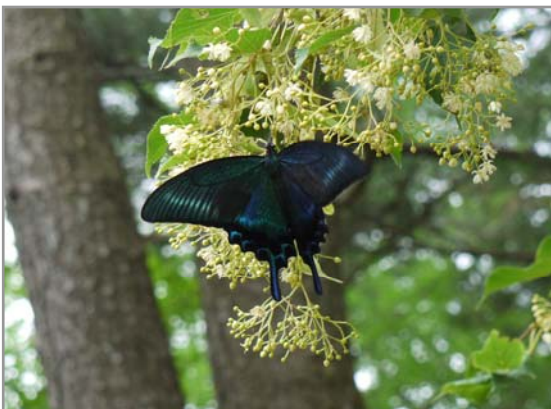
ルリボシカミキリ 〈カミキリムシ科〉 学名： *Rosalia batesi*



日本固有種。
澄んだ青色地に明瞭な黒紋がある、とても美しいカミキリムシ。
触覚までも青く美しい線をえがく。
山の材木置き場や、倒木などにみられる。
生木は食べない。

見られる時期：6月～9月 撮影日：2013.6.21

カラスアゲハ 〈アゲハチョウ科〉 学名： *Papilio bianor*



黒っぽく、はねの表が緑色～青色に輝いて見える美しいアゲハチョウ。輝きの強さは、見る角度によって微妙に変化する。
山道の湿った地面で吸水していることが多い。
また、ツツジなどの花でよく吸蜜する。
幼虫の食草は、コクサギ、サンショウ、キハダなど。

見られる時期：4月～9月 撮影日：2013.7.13

モリアオガエル <アオガエル科>

学名： *Rhacophorus arboreus*

準絶滅危惧種（静岡県）



てあし なが うつく
手足の長い美しいカエル。
なまえ
名前のおおりに、き うえ せいかつ
木の上で生活する。
はんしよくまき がつ がつ
繁殖期は4月～7月。
せなか あか もよう でる こたいぐん で こたいぐん
背中に赤い模様の出る固体群と出ない固体群がある。
しゃしん こたい あか もよう
写真の固体は、赤い模様あり。
いけ は だ き えださき あわじょう らんかい う
池に張り出した木の枝先に、泡状の卵塊を生むこと
ゆうめい
で有名なカエル。

↑
2013.5.31 アセビの樹上のモリアオガエル（体長70mm～80mm）大きさから、メスと思われる。地上から約3mほどの場所。
モリアオガエルは、産卵のために、自分が育った場所に戻ってくるとされているので、育った場所の様子をうかがっているのかも！？



↑2013.7.8 卵塊。
卵の数は300～800個といわれる。
卵塊の中でおたまじゃくしになる。



↑2013.7.25
卵塊の中でおたまじゃくしになると、泡の中を泳いで、1匹ずつ水面におちる。



ヤマアカガエル <アカガエル科>

学名： *Rana ornativentris*



なまえ
名前のおおりに、やまあい おお せいそく けいこう
山間によく生息する傾向がある。
ニホンアカガエルに似ているが、めからうしろにのびるせん
線が鼓膜のうしろあたりで切れるか、折れ曲がる。
さんらんまき はや がつ がころ かんぱ
産卵期は、ほかのカエルより早く、2月～4月頃。寒波
がくると、たまご凍って死んでしまうこともある。
さんらん おお
産卵が終わると、春眠する。
なかに じまき はや すく じまき さんらん
孵化の時期も早く、まだエサの少ない時期のため、産卵
場所では、先に生まれた幼生（おたまじゃくし）が、残り
の卵塊を食べることがある。

↑撮影日：2013.7.1
2013.4.26→



オオスズメバチ

〈スズメバチ科〉

学名： *Vespa mandarinia*



スズメバチ類としては^{世界最大の}種で、^{攻撃性、}毒性ともきわめて強い。幼虫の^餌としてコガネムシ、マツノマダラカミキリなどを好んで狩り、堅い外骨格もろともかみ砕いた肉団子を巣に持ち帰る。また他のスズメバチ類、アシナガバチ類を頻繁に襲い、セイヨウミツバチの敵としても有名。巣の規模は本州では最大で育室（六角形の部屋）が3000～5000程度。なわばりを占有する性質が強く、樹液を吸っている働きバチを刺激すると襲われることがあるので要注意。

↑オオスズメバチは土中に巣をつくることが多い。

撮影日 2013.6.1

トラマルハナバチ

学名： *Bombus diversus*



↑ウツボグサの花にすっぽりはまってかわいいです。



↑アカツメクサの蜜を吸う。

マルハナバチ類の中では、もっとも個体数が多く、4月下旬から10月まで、主に山麓一帯に生息し、標高1000m付近まで、各種の花に見られる。

撮影日 2013.7.13

撮影場所：所内草地

キアシナガバチ

〈スズメバチ科〉

学名： *Polistes rothneyi*



^{近似種}のセグロアシナガバチと姿がよく似ている。^{樹木の枝や人家の軒先に}巣をつくる。

セグロアシナガバチは平地に多いのに対して、本種は低山地に多い。

日本産アシナガバチ類のなかでは最も^{攻撃性}および^{毒性}が強い。

撮影日 2013.7.3